

確かな学力の向上をめざして [7月]

「特別の教科 道徳」の充実を図るために

「特別の教科 道徳」が全面実施となりました。 答えが一つではない道徳的課題を児童生徒が自分自身の 問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現が求められています。

めざす道徳科の授業



考え、議論する道徳授業の構想

徳科の かかえている課題

読み物道徳

読み物資料の心情理解に終始する授業

- ○気持ちの変化を捉える
- ○人物の気持ちに共感させる

押し付け道徳

望ましいと思われること、決まりきった ことを言わせたり、書かせたりする授業

- ○何が大切か
- ○どうすることが望ましいのか
- ●主体的な学び・・児童生徒が真剣に考えること
- ●対話的な学び・・児童生徒が共に語り合うこと
- ●深い学び・・・・児童生徒が生き方について考えを深めること

考え、議論する道徳

自分との関わりで道徳的価値を考える授業

- ●自分自身を見つめる
- ●人物の共感し自分との関わりで気持ちを想 像する

自分との関わりで多面的、多角的に考える 授業

- ●どのようなわけで大切なのか
- ●どうすることが考えられるのか 等

児童生徒が主体的に深く考えるよう になるためには?! ⇒ 考える必然性 のある発問づくりや児童生徒が本音 で語り合える学級集団づくりが大切

「特別の教科 道徳」の評価の在り方

子どもたちは「特別の教科 道徳」で、道徳的諸価値についての理解を基に、自己の(人間とし ての)生き方についての考えを深める学習をしていきます。その学習過程で見られる子どもの2つ のポイントについて見取り、評価しましょう。



- ① 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中でどう深めているか。
- ② 児童生徒が、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。

大切なのは「指導と評価の一体化」

評価について、学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳 第3の4」に、次のように示されています。

「児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める 必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」

学習における評価とは、

児童生徒にとっては

自らの成長を実感し意欲 の向上につなげていくも

教師にとっては

指導の目標や計画、指導方 法の改善・充実に取り組む ための資料となるもの

授業の効果を上げるために

指導と評価の一体化

子どもの姿から、教師自らの指導を 評価し、その評価を授業の中で更なる 指導に生かすことが、道徳性を養う指 導の改善につながります。

子ども達にとって、考えたくなる、友達と話したくなる、発見がある道徳科の授業の実現に向 けて取り組んでいきましょう。「鳥取県学校教育のめざすもの」も参考にしてください。

